



主要な農作物の生育情報

平成22年度 第4号
(平成22年 7月 9日)
福島県農林水産部研究技術室



【水 稲】

6月以後高温に経過したことから全般的に生育が進み、6月30日現在の農業総合センターの生育調査では、主稈葉齢が1～7日程度進んでおり、草丈が長く葉色が濃い傾向にあります。茎数は本部(郡山)で多く、浜地域、会津地域では平年並みから少ない状況です。

表1 水稻の生育状況()

調査場所	品 種	移植期 (月.日)	6月29日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉齢	葉色
本 部	コシヒカリ	5.14	52.1 (111%)	744 (110%)	9.9 (+0.8)	36.3 (+0.1)
	ひとめぼれ	5.14	54.2 (119%)	885 (117%)	9.7 (+0.4)	39.8 (+0.9)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.10	56.1 (120%)	624 (92%)	9.5 (+0.2)	39.4 (+0.1)
	ひとめぼれ	5.10	61.7 (130%)	800 (104%)	10.0 (+0.7)	44.1 (+1.7)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	58.2 (111%)	641 (90%)	9.8 (+0.3)	38.2 (+1.2)
	ひとめぼれ	5.20	57.5 (112%)	730 (94%)	9.8 (+0.2)	39.8 (+0.4)

調査：農業総合センター本部(郡山)、浜地域研究所(相馬)、会津地域研究所(会津坂下)
()内の数字は平年比または平年差。

【大 豆】

播種は、5月下旬が天候不順で進まなかったが、6月以後は順調に進み、農林事務所からの情報では6月下旬までにほぼ作業が終了しています。出芽、初期生育もおおむね良好です。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

定植後の低温で中下段の節間が短かく、出荷開始も平年比5日程度遅れの6月下旬からとなりました。現在は、気温の上昇に伴い節間も伸び、側枝の発生も良好となっています。

2 夏秋トマト

県南地方の2月下旬から3月上旬にかけてのは種の作型では、現在8段果房の開花で3段果房の収穫開始で、平年と比べやや生育が遅れています。目立った病害虫の発生はありません。

南会津地方では、6月上旬中に定植が行われ、現在2～3段果房が開花中で生育は順調です。

3 サヤインゲン

田村地方の定植作業は、平年より7～10日程度遅れて5月下旬から6月上旬となりました。生育は回復傾向にありますが、ほ場により生育のバラツキが大きい状態です。

双葉地方では、5月下旬の低温により生育は遅れていましたが、回復傾向にあります。平年比で7日程度遅れています。

4 夏秋ピーマン

田村地方では定植作業が7日程度遅れましたが、気温の上昇に伴い生育は回復傾向にあります。また、生育はやや遅れているものの着果量は多くなっております。出荷開始はトンネル栽培では6月中旬から行われており、露地栽培も7月10日頃より行われる予定です。

5 夏秋ナス

露地栽培での収穫開始は6月下旬から開始され、平年比7日程度遅れています。害虫ではハダニ類が散見されます。

6 アスパラガス

会津地方では露地栽培は6月中旬から立茎を開始しており、現在若年株で夏秋どりの収穫中です。半促成栽培は6月中旬から夏秋どりの収穫を開始しています。

南会津地方では、露地栽培は6月中旬から立茎を開始しています。半促成栽培は夏秋どりの収穫始めとなっています。

【果 樹】（7月1日現在：農業総合センター果樹研究所）

1 モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」が平年比97～99%、「ゆうぞら」が平年比99～100%と概ね平年並みの状況です。果実の生育日数（満開後の日数）による比較でも概ね平年並みの肥大となっています。

農業総合センター果樹研究所によると、「あかつき」の収穫期は平年より1日程度遅いと予測されています。

2 ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」が平年比97～101%、「豊水」が平年比97～100%と概ね平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では平年より大きい状況です。

3 リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」が平年比95～96%、「ふじ」が平年比99%と平年並み～やや小さい状況です。果実の生育日数による比較では概ね平年並みの状況です。

【花 き】（7月9日現在）

1 キク類

露地栽培の小ギクや輪ギクでは、8月咲き品種の草丈がやや短い傾向にありますが、ほぼ前年並み（86～107%）の状況です。

9月咲き品種の定植は、例年通り6月上旬で終了し、その後の生育も順調です。

2 リンドウ

トンネル被覆や施設利用による極早生品種の出荷は、6月下旬から開始されていますが、6月の高温条件によりやや遅れ気味です。

早生品種の生育は、順調で、草丈は昨年を上回っている状況（108～126%）です。

3 シュッコンカスミソウ

高冷地の越冬株栽培での出荷は、7月10日頃から最盛期となる見込みです。

4 トルコギキョウ

会津地方の無加温促成栽培は、ほぼ平年並みに7月中旬がピークとなる見込みです。また、季咲きの作型では、7月から計画通りに出荷されています。

抑制栽培の定植は、8月上旬まで行われますが、定植後の生育は順調です。

5 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、「うつみね」を中心に2年生株の早生系の出荷が6月下旬から行われており、現在、最盛期を迎えています。また、中生系の出荷も7月5日から始まりました。

【飼料作物】

1 牧草

一番草は、作柄判定ほや畜産研究所では、5月下旬に収穫盛期となり、ほぼ平年並みからやや少ない収量となりましたが、収穫時期が天候に恵まれたことから、良質な粗飼料が生産されています。

二番草は、順調に生育しており、一部生育の早い地域では7月上旬から収穫が開始されていますが、平地では7月中旬、山間部では7月下旬に収穫期となる見込みです。

2 飼料用とうもろこし

飼料用とうもろこしの生育は、5月中旬以降天候に恵まれ順調に生育し、作柄判定ほや畜産研究所では、平年並みからやや平年より早く生育しています。

【葉たばこ】

葉たばこの生育は4月中～下旬の天候不順の影響や5月の低温により、中山間地を中心に遅れており、作柄はやや小柄で不揃いとなっています。病害虫の発生は疫病が散見され、黄斑えそ病やキュウリモザイク病も見られます。収穫は1回目終了し、心止が開始されています。

【こんにゃく】 (7月7日現在)

出芽は、1年生が平年よりやや早く、2年生が平年よりやや遅れています。

表2 出芽・開葉状況 (農業総合センター)

品種・年生		出芽期			開葉期		
		平年	本年	平年差	平年	本年	平年差
あかぎおおだま	1	7/4	7/2	-2	7/10	-	-
	2	6/27	7/1	+4	7/8	-	-
みやままさり	1	7/14	-	-	7/22	-	-
	2	7/4	7/6	+2	7/14	-	-

注) 平年値：平成18～21年(4ケ年)の平均値(参考値)

【桑】

5月までの天候不順の影響で6月上旬の伸長状況は両品種ともに前年を大きく下回りましたが、6月は平年に比べ高温・多照で推移したために旬間伸長が前年に比べ伸びました。

表3 平成22年度 桑の伸長状況（春切り） （単位cm）

調査地点	品種	年度	6月10日	6月20日	6月30日
郡山市日和田町 (農業総合センター)	改良鼠返	本年	39	66	94
		前年	65	83	102
		平年値(梁川)	63	83	104
	きぬゆたか	本年	33	65	97
		前年	66	93	117

病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukuyuu/seiikugijyutsujyohou.html>